

バングラデシュ に行ってきました



JANNET現地研修会報告

2008.5.31

ツアー日程 2008年3月1日ー5日

- 3月1日 CDDによるオリエンテーション、関係者との夕食・交流会
- 3月2日 Jessoreへ移動。BKFにてオリエンテーション
障害児のいる家庭訪問(2グループ)
- 3月3日 村の中学校訪問
収入創出活動訪問(2グループ)、地域の関係者との交流(BKFに
て)
村の障害児をもつ母親のグループ訪問
- 3月4日 BKFのマイクロクレジットグループ見学
BKFにてまとめ後ダッカへバスで移動
- 3月5日 社会福祉局表敬訪問、CDD研修センター見学
CDDにて最後のまとめ。終了証書を受け取る。
参加者主催お礼の夕食会



バングラデシュってどんな国？

- 面積：14万4千平方キロメートル(日本の4割)
- 人口：1億4,710万人(世界人口白書2007より)
- 民族：ベンガル人が大部分を占める
- 国語：ベンガル語
- 宗教：イスラム教徒が90%近く
- 国民一人あたりのGNIは470米ドル

- 障害情報：障害者数 WHO推定では10%の1400万人。
NFOWDの2003年のサンプル調査では5.6%。
- 2001年障害者福祉法施行。
- 2006年障害に関する国家行動計画 が国内調整委員会により承認。
(国家の調整、障害原因の予防、訓練、早期発見、教育と補助器具の
開発、コミュニケーション、雇用とリハビリテーション、人材開発、社会保障、
自助組織の促進)
- 2007年国連障害者権利条約批准

3



CDDとCAHDの復習

CDD:1996年設立。開発NGOに障害を含めてもらうための
研修をマネージャーおよびリハビリテーションワーカー、ソーシャル
コミュニケーター養成のために行っている。研修対象者は、コミュ
ニティレベルから社会福祉省の役人まで。

CAHD:バングラデシュでの経験をもとに、HI, CBMが体系化を支援した
といわれる、CDDの活動の基本となる考え方で、CBRの実践戦略。
既存の開発NGOに障害を組み入れてもらう活動。
障害をもつ個人への働きかけと同時にコミュニティの人々の積極的
な態度へと変化を生み出す活動を含む、包括的アプローチ。

4

ジェソールは名古屋？

ジェソール県

人口:240万人(男女比 51:49)

ジェソール市

面積:25.72平方キロメートル

人口:118万人(男女比 53:47)

バングラデシュで3番目の大都市

南西部で唯一の飛行場所有

産業:工業

宗教:回教-85%、ヒンズー教-15%



5

外部資金への依存度0の優良団体

BKF 僕等、Aimlessで始めたんです。

1992年、13人の幼馴染が漠然とした思いで小額貯金(3タカ/週)開始



賛同者が徐々に増えて資金が貯まった⇒
マイクロ・クレジット(MC)事業を開始⇒
MCの利益を社会還元したい⇒障害者支援を実施。

事業

① MC事業

原資:自己資金(100,000タカ)、政府よりの借入金(150,000タカ)

利子:6%(一般)、0(障害者)

② 障害者支援事業 (費用はMCの利益で賄っている。)

内容:リハサービス提供、特殊教育、統合教育推進、就労促進など

6

MC (マイクロ・クレジット) 概要

利用者数: 35,000人(障害者41人)
農村居住者—8割、市街地居住者—2割
MCスタッフ数: 210名
マネージャー、経理、集金係り(180名)
利子: 年6% 但し障害者は0%
返済率: 98.1%

方法: 1. 地域でMCのグループを結成する(メンバー数15—30名)。
2. 各メンバーが小額貯金をする。
3. 一定の金額が貯まると、メンバーはクレジットを使って事業を開始する。
4. 返済は週に一回
返済と貯金の集金のためにBKF集金係りが週に一回グループを訪問。また、事業運営や資金管理の助言をする。

7

MCの例 : 私たちは強くなった!

女性グループ

開始: 1997年

メンバー: 35名(1名軽度身体障害者)

貯金: 20タカ/週

ビジネス: 皮細工、畜産、雑貨屋、
野菜の卸売り

変化: 地域で一グループとして発言
家庭で一意思決定に参加
男尊女卑解消!

返済できないとき: メンバーで助け合う



8



障害者支援

受益者： 300名

スタッフ： （給料はMCの利益から）

ソーシャル・コミュニケーター（SC） 2人

業務：地域住民、行政、学校、聖職者にアプローチし、地域への統合、統合教育、就労を促進する。

リハビリテーション・ワーカー（RW） 3人

業務：家庭訪問によるサービス提供。訪問頻度 1/週

研修：マネージャー、SC、RWはCDDの研修参加

＋統合教育のために、教師もCDD研修参加

☆活動を側面から支援する人達として、聖職者、行政、マスコミ 関係者にBKFが研修提供。

障害者支援例1

来年の入学を目指して！

家庭訪問

受益者：女兒、7歳、脳性まひ

RWの訪問：2005年～ 1/週

☆母親のリハ研修も実施

入学までに達成する1～3

その1. 車椅子を手に入れる！

その2. 学校がバリアフリートイレを作る

その3. 本人のトイレトレーニング終了



11

障害者支援例2. 統合教育！

公立小学校と中学校

受益者：小学生2名、中学生2名
脳性まひ、弱視

準備：SWが校長にアプローチ
CDDが教師に研修提供
教師が他の生徒の理解促進
障害児をサポートする児童を選ぶ

現在：障害児は支援児とペアになり
学習、他の子供たちも随時支援



12



障害者支援例3.

収入創出

1. 繊維工場で働く

- 男性2名、20代
- ・下肢障害で義足着用の人1名
- ・視覚障害の人1名

仕事は部品の接合と皮なめし

2. 自営(縫製)

- 女性1名、20代

BKFの支援:
職業、職場開拓
補そう具の提供
職業訓練の提供





障害者支援例4. 母親の会

メンバー：13名

障害児 ——1～18歳
 知的障害、脳性まひ、身体
 障害、重複障害など

結成 : BKFの母親研修

活動 : 集まり 1/月
 子供の話を話し合う
 MCに参加
 BKFの巡回診療
 障害に関する勉強

変化 : 地域の人々の態度



障害者支援 地域有力者を巻き込んで

CDD、BKFが有力者研修提供
前 と 後

宗教指導者

障害は神の思し召しと言っていた⇒科学的に説明している。

労働組合リーダー

障害者は対象外と考えていた⇒障害者の権利と能力を信じる。

マスコミ

障害者に否定的な記事を書いた⇒障害者の社会貢献を信じる。

17













